



おひさま岡町保育園 乳児No.7

毎日暑い日が続きますが、一雨ごとに朝晩が少し涼しくなってきました。今年度は例年と比べて猛暑日が続く、熱中症指数が31℃を超える日がありました。園では熱中症対策のひとつとして、遮光ネットを拡張して、子どもたちが安全にプールあそびを楽しめるようにしました。

まだ、コロナウイルス感染症に対する予防も必要です。引き続き子どもの朝の検温を行い、体温が37.5℃以上ある時、呼吸器症状がある時、いつもと比べて体調がすぐれない時は、登園を控えて自宅でゆっくり過ごすようにしましょう。

## 発育測定をします

つくしぐみ 9/7

たんぽぽぐみ 9/1

すみれぐみ 9/3



“すくすくけんこうてちょう”を確認後、サインをして所定の位置にもどしてください。

### 登園の目安

「解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと」とされています。不機嫌、よく泣く、あまり眠らないといったときは、まだ体調がよくない状態です。こういう時は、解熱していても、自宅でゆっくり過ごすようにしましょう。

解熱していても発疹が残っていても、登園停止の疾患ではありません。その理由は、解熱して発疹が出現して診断がつく頃には、ウイルスの排出はなくなるため、他の園児にうつすリスクが低いからです。

※原因となるウイルスは、1種類ではないので、2度罹患する子どももいます。

### 8月の欠席状況

つくしぐみ…下痢1名

たんぽぽぐみ…突発性発疹(疑)2名

突発性発疹1名

すみれぐみ…病欠なし

## 突発性発疹ってどんな病気？

### 症状と特徴

生後6か月～2歳によくみられる疾患で、3日間程度の高熱の後、解熱するとともに紅斑が出現し、数日で消えてなくなります。また、便が軟便から下痢になることもあります。

## “とびひ”について



“とびひ”は、夏の疲れが出る8月の終わりから9月頃に多くなります。虫刺されの痕や傷を掻き壊すことで、傷口に細菌が感染して“とびひ”になります。「傷がジュクジュクしている」「なかなか傷が治らない」というのが、“とびひ”の始まりのサインです。“とびひ”になると、かゆみの強い小さな水疱ができます。かゆいからといって、掻いてしまうと水疱が破れて中の液が周りに付いたり、掻き壊した指先で他の所を触ると、“とびひ”がどんどん広がってしまいます。



### 家庭での手当て

- 発熱などの全身症状がない限り入浴して、せっけんをしっかり泡立て、手に泡を取り、患部を丁寧にそっと洗い、皮膚を清潔に保ちます。この時、湯船につかるのではなく、シャワー浴にします。
- タオルで身体を拭く時は、ゴシゴシ擦らず、押さえ拭きをしましょう。
- 入浴後は、滲出液などが周囲に接触しないように、皮膚科で処方された薬があれば薬を塗ってから、患部をガーゼで覆います。



日頃から、皮膚を傷つけないように爪を短く切るようにしましょう。



## きそくただ せいかつ 規則正しい生活 をしよう

毎日元気に過ごすためには生活リズム整えることが大切です。決まった時間に起きて朝ご飯をしっかり食べることは、その日一日を元気に過ごす活力となります。また、朝ごはんをしっかり食べることで、腸の動きが活発になり、毎日トイレに座って排便習慣をつけることで便秘予防にもなります。朝は慌ただしくなりがちですので、時間に余裕をもつようにしましょう。

